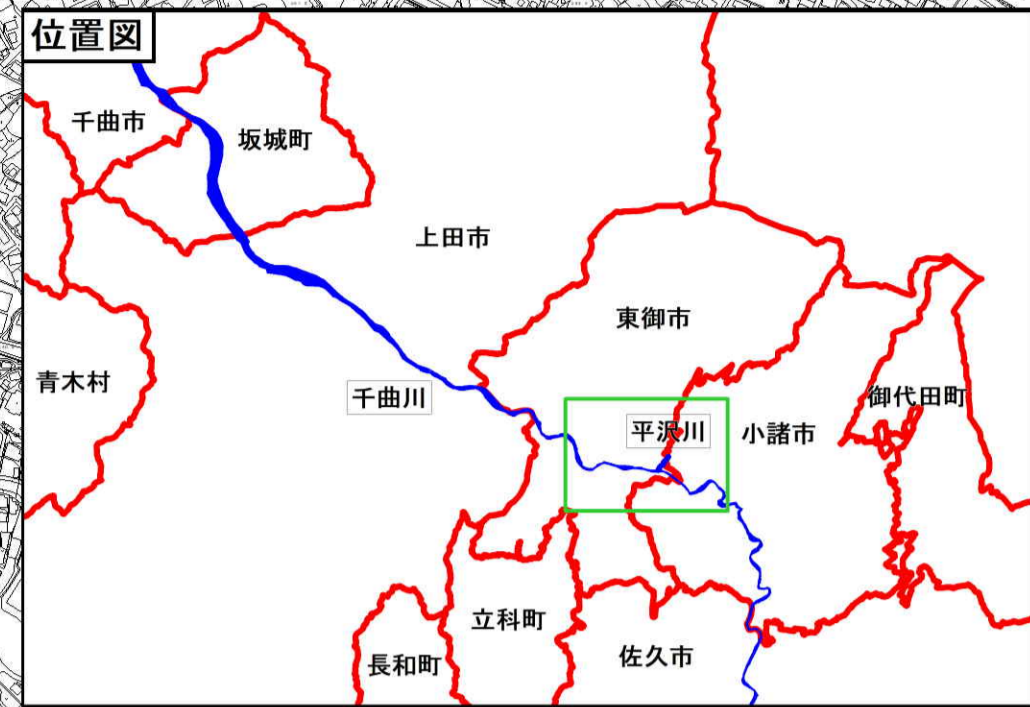
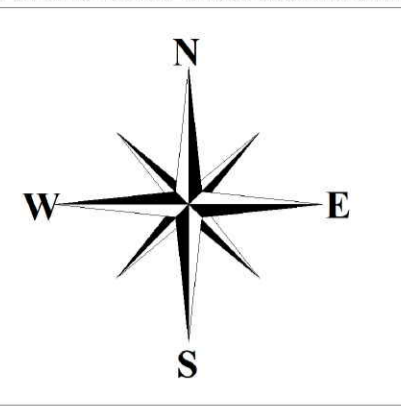


信濃川水系 平沢川 多段階の浸水想定図 (現況河道W=1/30)



1. 説明文

(1) この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、現況（令和7年度末）の平沢川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30（3.3%））の降雨に伴う洪水により平沢川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出し、想定される浸水範囲と浸水深を示したものです。

(2) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水が想定される範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、中央集中型モデル降雨波形を用いているため、各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

2. 基本事項等

(1) 公表年月日 令和8年3月27日

(2) 作成主体及び対象となる河川 長野県上田建設事務所：信濃川水系平沢川

(3) 実施区間 長野県上田建設事務所
・平沢川
左岸：小諸市大字滋野甲字下宿 1094 番の 5 地先から東御市滋野赤岩（千曲川への合流点）まで
右岸：東御市滋野字西宿甲 2089 番の 5 地先から東御市滋野赤岩（千曲川への合流点）まで

(4) 算出の前提となる降雨
年超過確率 1/30（平沢川流域の 2 4 時間の総雨量 9.3 mm）

(5) 河道条件 現況（令和7年度末）

(6) 関係市区町村 東御市、小諸市

(7) その他計算条件等

① 氾濫計算は、対象区間をおよそ 5 m 間隔の格子（計算メッシュという）に分割して、これを 1 単位として水深を計算しています。また、計算メッシュの地盤高は、航空レーザ測量等により求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響が反映できない場合があります。

② 洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュごとの想定浸水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して図化しています。

※この浸水想定図は流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。

東御市

平沢川

小諸市

凡 例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m～20.0m未満の区域
- 20.0m以上の区域

- 市町村境界
- 河川等範囲
- 実施区間

